

一 般 質 問 通 告 書

2025年2月27日

高島市議会議長 河越 安実治 様

高島市議会議員 2 番 松木 純子

次の事項について質問いたしたいので通告します。

※質問項目（番号）が2以上ある場合は、次のどちらかに○をつけてください。

- ・質問番号1の用紙にだけご記入ください。
- ・質問が一つだけの場合は必然的に1となりますので、記入は不要です。

初問は { ①. 全項目一括質問一括答弁
2. 項目ごとに一括質問一括答弁

(質問番号 2) 発 言 事 項	学校で使用する上履きと「足育」の推進について
要 旨 (項目だけでなく、質問の趣旨が理解できるように記入してください。)	
子どもの運動習慣形成と体力向上に向けた取り組みについて、スポーツ庁では生活全体を通じて少しずつでも運動機会を確保し、運動好きな子どもや日常から運動に親しむ子どもを増やすことを目指して、発達段階や子どもの多様なニーズを踏まえた取り組みや運動意欲を引き出す授業づくりなど、学校・家庭・地域における様々な取り組みを支援し子どもの運動習慣の形成や体力向上の取り組みを推進しています。 また、令和6年度 全国体力・運動能力・運動習慣等調査結果によりますと、「運動は好き」と答えた生徒は小中学校男女ともに増加し、中学校男子は過去最高であります。 「運動は好き」「体育・保健体育は楽しい」と回答した児童生徒は、それ以外の児童生徒と比べ体力が高いとの結果も出ています。 このように子どもたちが心身共に健やかに成長し、生涯健康に過ごせるようにするために体力づくりは大切です。 運動能力を伸ばし、怪我を予防し成長期の大切な足を守るためには、足に合った靴を正しく履くことが大切です。 しかし、児童生徒1000人の足計測の実態を調べると、(公益財団法人 日本学校体育研究連合会が発行している「JASPE足育パンフレット」参照)何らかの足のトラブルを経験したことがある子どもたちは 小学校(低) 31% 小学校(高) 40% 中学校 57% 高校生 74% と年齢が上がるにつれて高くなっていきます。子どもたちのその後の成長や生活にも大	

きく影響していくと予想されます。

また、小学校現場で感じる児童の実態としてあげられています、体力の低下、姿勢を保持するなどの筋力の低下、上履きに対する固定概念など、学校生活において危機的な足元の実態があるといわれています。

子どもたちの健やかな成長のために、まずは大人が正しい知識を身に着け、子どもたちにも足や靴について正しく伝えていくことが必要です。

高島市の学校でも足に合った靴を正しく履くことの大切さは指導や周知がなされていると思いますが、運動時だけではなく普段の歩き癖が体に及ぼす影響は世間でもあまり知られていません。

成長期であり骨が未完成の子どもたちにとって、外で履く靴よりもはるかに長い時間履いている上履きはとても重要です。

私がこれまで高島市の園や学校現場を見てきた中で、上履きが足のサイズに合っていない、正しい履き方が出来ていないなどといったことが多く見られました。

足に合わない靴が、子どもの歩き方や姿勢など足の健康に与える影響は大変大きく、その後の生活にも大きく関わっていきます。

体の土台である足づくりは、良い姿勢を保つためには欠かせないもので、その足を守る靴選びは大変重要です。

1日の中で一番長い時間を過ごす学校内での上履きは、前にゴムがついているいわゆるバレエシューズが多く使用されています。バレエシューズは脱ぎ履きしやすく比較的安価で、洗っても乾きやすいなどの利点がありますが、逆に欠点もあります。

例えば、足が固定されないために足が疲れる、足の長さに合わせてサイズしか選べない（足幅が広い足の甲が高いなどのお子さんは大きめサイズになる）脱ぎ履きしやすいことは災害時の避難にも脱げやすい。などがあげられます。

学校によっては体育館での運動時にもバレエシューズを使用している学校もあり、固定できない、足に合っていないシューズでは転倒などでの怪我のリスクも高くなります。

中学校においては上履きにスリッパが指定となっているところもあり、災害時や緊急時の避難においても大変危険です。

3年ほど前に自身で滋賀県内の102校の中学校の上履き状況を調べた結果、

① 踵のある靴を使用している学校77校

② スリッパを使用している学校25校

その中でも大津市の中学校は21校すべてが踵のある靴を使用されているとのことでした。

災害時や緊急時に迅速に行動し足を怪我しないようにするために、防災の観点から家庭においても寝室には靴を置くようにといわれています。

まして、保護者の管理下でない学校生活において、集団で安全に避難するためにも学校での上履きにスリッパを使用することについて見直す必要があると思います。

1日の中で一番長い時間を過ごす学校において上履きは健康面、安全面ともに大変重要と考えますが、成長期に買い替えは出費がかさむので安いものがないといわれる保護者さんの声もあることは事実です。

そこで以下の点について質問いたします。

- 1 保護者さんが靴を買い替えるタイミングの目安にするために、学校の身体測定時に足の計測も取り入れてみてはどうでしょうか？

また、足に合った靴を履くためには今後、足の長さだけではなく幅も選べる上履きを取りいれてみてはどうでしょうか。

上履きを見直すことについては、保護者の方の経費負担を軽減するための支援策も検討が必要と考えますが市の所見を伺います。

- 2 中学校の上履きにスリッパを使用することについては、災害や緊急時に自身の身を守るために安全に逃げられるための備えが大切なことを、保護者の方や子どもたちに今一度情報共有していく必要があると思います。

そのために、防災課の担当と協議を始めてはどうかと考えますが、市の所見を伺います。

- 3 昨年の8月に「市制20周年記念事業 みんないこうよ！しあわせつながる元気プラスフェスタ」が開催されました。

記念講演では長野県佐久市から講師をお招きし、「歩行ケア～歩き方の個性は身体づくりのヒント～」と題してご講演いただきました。

講演後には「歩行計測会」の体験もあり、自身の普段の歩き癖に気づき、足育の大切さを知るきっかけとなり、市民の方からは大変好評であったとお聞きしています。

長野県佐久市では「足育推進協議会」を立ち上げ、市をあげて足育に取り組んでおられます。

病院・靴の販売店・スポーツ用品店・学校・市役所などが連携をとり、足や爪の痛みやトラブル、靴の選び方、履き方に関して何かあれば対応できるように、佐久大学に足育サポートセンターを設けておられ相談窓口となっています。

高島市も健康寿命をのばし、長く自分の足で歩いて行けるように、そして乳幼児から義務教育までの子育て支援に恵まれていることをさらに活かし、「子育てするならたかしま」といわれるように足育を含めた特色のある施策を実施していくことが必要だと思いますが、いかがか伺います。